

令和4年度 外部被ばく量調査報告

バッジ着用期間：令和4年9月1日～10月31日(2ヶ月間)

測定時期については、長期間の休みがなく外活動が最も活発な時期を選んでおります。通常の生活をして、これ以上の被ばくにはならないという安全側に見積もった被ばく量計算の概念を取り入れたものです。

外部被ばく調査の目的

福島第一原発事故に由来する被ばく量を明らかにするために調べています。その際、自然放射線や医療放射線による被ばく量は除いております。

事故由来の外部被ばく量は、一人ひとりの行動の違いによって異なりますので、各個人が計測器で測定することにより被ばく量を把握し、生活等の改善に活用することができます。

1. 測定状況及び推定年間追加被ばく線量

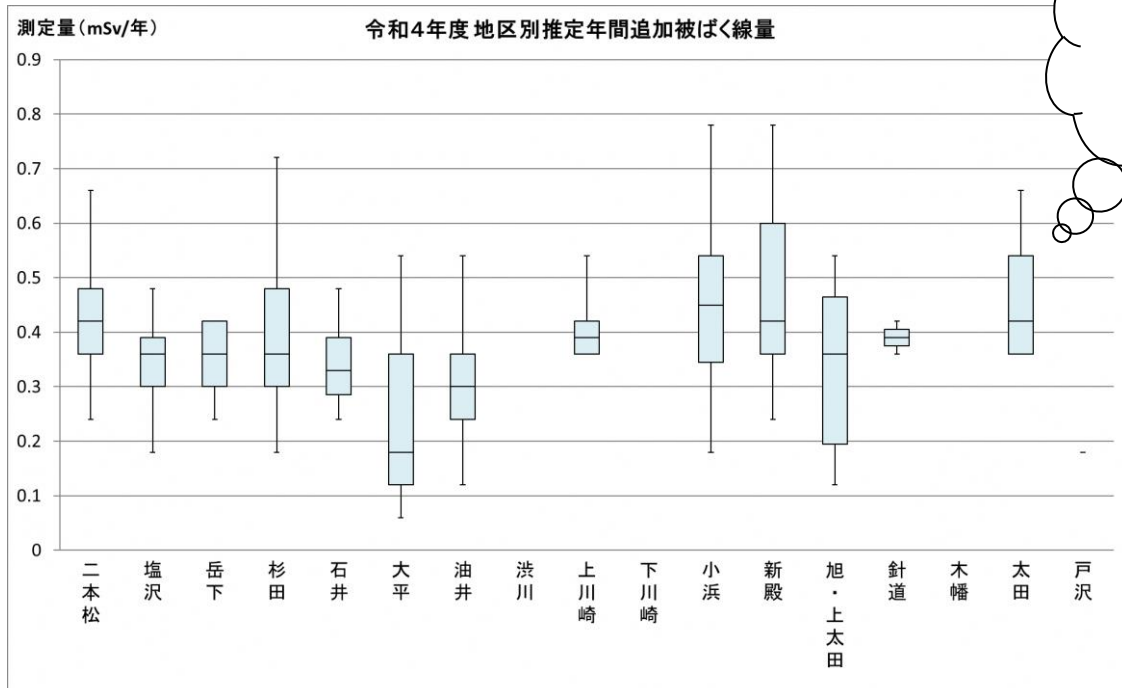
※推定年間追加被ばく線量 = (二か月間の測定結果) × 6

対象グループ	希望者 (人)	実測定者 (人)	提出率 (%)	推定年間追加被ばく線量		
				平均値 (mSv)	最大値 (mSv)	最小値 (mSv)
乳幼児 (0～6歳)	14	14	100.00%	0.41	0.66	0.18
小学生	46	42	91.30%	0.39	0.78	0.18
中学生	23	21	91.30%	0.37	0.54	0.12
高校生相当	5	5	100.00%	0.37	0.54	0.18
一般(19歳以上希望者)	44	43	97.73%	0.37	0.78	0.06
全測定者	132	125	94.70%	0.38	0.78	0.06

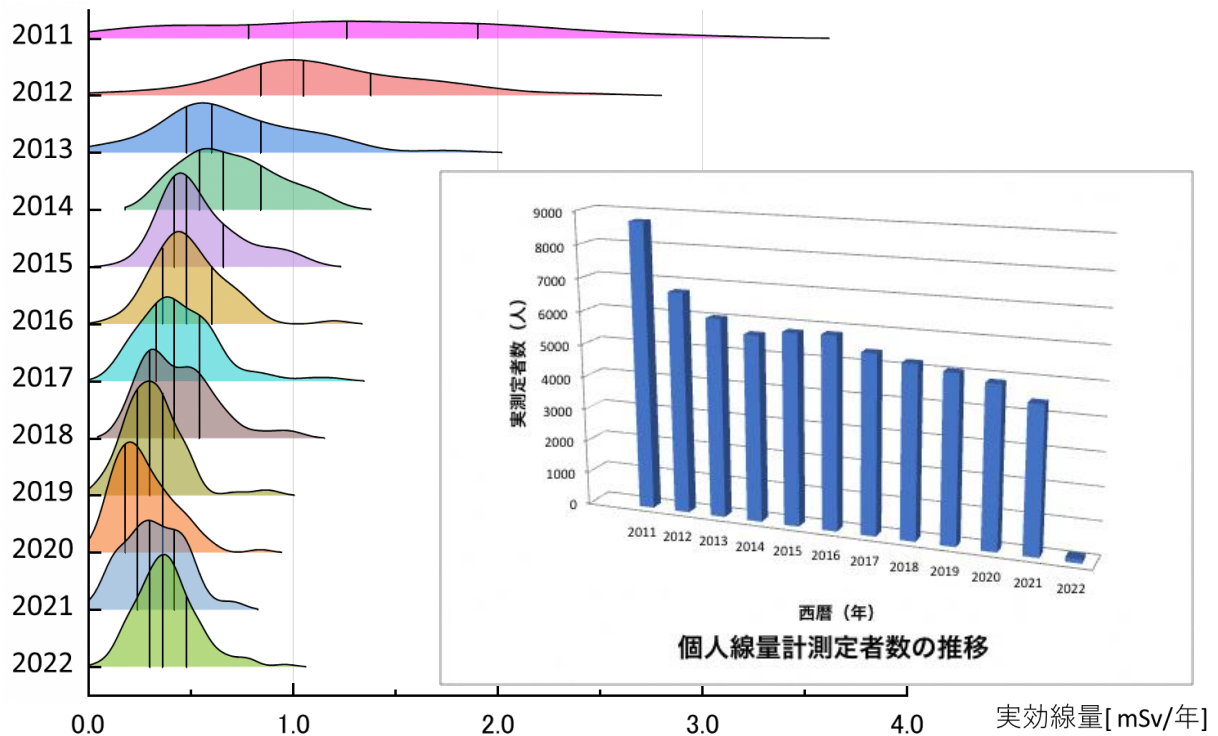
※測定者 126 人のうち自宅放置の者 1 名を抜いて計上

<令和4年度 地区別推定年間追加被ばく線量>

測定結果から年間追加被ばく線量を推定し、地区ごとに表しました。
結果がない地区には測定者はいませんでした。



2. 測定者の推定年間追加被ばく線量の分布



市放射線アドバイザー木村先生からのメッセージ

2011年9月から始めた当市の外部被ばく検査ですが原発事故から11年が経過した現在、半減期が2年と寿命の短いセシウム134も1/64近くまで下がってきましたので、全体的に放射線量の減少率も落ち着いてきました。

この11年を振り返って、外部被ばく線量の傾向としては事故当初は、住む場所により比較的線量が低いところからとても高い地域まで幅がありました。

現在ではその幅が狭まり、年間被ばく推定値が1mSvを超える方はいなくなりましたが本当にそうなのかわからないのが本当のところ。それは測定参加者数が、原発事故から11年を迎えた昨年、前年比で実に97ポイントの減少となりました。その結果、今年度の測定結果から統計学的な傾向を見るのが難しい状況となったのです。

セシウム137の半減期である30年の折り返し年にも届かず、もう安心と思わず、これからも、自分の住んでいる環境や自分の生活行動のなかで、外部被ばくがどの程度なのかを知ることをもう一度始めませんか？